

| | | | |
|----------------|-----------------------------|-----|------------------|
| ○事業所名 | 重度心身障がい児 放課後等デイサービスひまわり菊川西校 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和7年 11 月 14 日 | | ～ 令和7年 11月 28日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 10名 | (回答者数) 8名 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和7年 10 月 17 日 | | ～ 令和7年 10 月 30 日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 4名 | (回答者数) 3名 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年 1 月 22 日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|--|---|
| 1 | ・家庭では実施が難しい、視覚・聴覚・触覚・嗅覚・味覚といった五感を主に使った遊びを取り入れ、楽しみながら感覚を刺激し、心身の発達を促す支援を行っている。 | ・製作活動でも感触を楽しめるように様々な素材を使用したリ、季節に合ったものを使用して製作している。・片栗粉遊び・氷を使った遊び・春雨や寒天遊び・重曹とコンディショナーで雪の感触を楽しむ等、感触遊びを多く行っている。 ・アロマオイルなどを使用して香りを楽しむ活動も行っている。 | ・引き続き、様々な感触遊びを行っていく。・味覚を楽しむ活動も行っていきたい。実際に遊びで行った物の本物を食べたり飲んだりしてつながりのある支援を行っていく。(イチゴ狩りゲーム→自分で狩ったイチゴの本物を見て食べる・ジュースにして飲む等)・気温などに注意しながら散歩などを通して外の空気や季節の変化を感じるなど五感への刺激を取り入れていく。 |
| 2 | ・日頃から防災への意識を高く持ち、非常時に備えた環境整備や職員間の情報共有を行っている。 | ・防災についての話し合いは頻繁に行っている。・防災用品を充実させている。・訓練を定期的に行っている。 | ・様々な可能性が考えられてしまうため、いくつかの避難パターンを考えて置くようにする。・引き続き具体的な訓練を行い、改善を行っていく。 |
| 3 | ・一人一人の発達段階や特性に応じた教育的支援を大切にしている。 | ・個別の学習支援を使用している児童がいる。・日々の支援の中でも一人一人に合った活動内容や少しでも学習と紐付けが出来るように得点や時計の読み方等を意識したコミュニケーションを行っている。 | ・専門的職員の配置・特化型の事業所が多くなっている。保護者のニーズに合わせたサービスを提供していく。 |

| | 事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|--|--|
| 1 | ・職員数が少ない・常勤の看護師がいない ・専門職の知識が必要だが足りていない | ・利用人数が多いため職員数が少なく対応に追われてしまう。活動の幅を広げたいが限られた人数で安全に過ごすことが精一杯である。・常勤の看護師がいないため医ケア児の利用日が限られてしまうことがある。・動ける子がいたり発語がある子がいたり様々な課題があるが一人一人にあった支援が出来るように専門的知識や話し合いがより必要だと感じる。色々な特性にも対応できるような体制を取っていく必要がある。 | ・職員が続けられる働き方を考えていく。・現職員の専門的知識取得を促す。・各々の考える良い支援を引き出し合い、実現へ繋げていき振り返り評価をコンスタントに行う。・専門的支援が実際に行えるような話し合いを常に行っていく。 |
| 2 | ・バリアフリーになっていない。 ・トイレの数が少なく、プライバシーを守る空間が少ない。 ・特性に応じた部屋がない。 ・子供の人数に対して部屋数が少ない。 | ・室内には段差が多く、バリアフリーになっていないため移動の際など十分に注意する必要がある。・トイレを使用する利用児は多いがトイレが一つしかない為、順番待ちが発生してしまう。また、職員も使用するため使用頻度に対してトイレの数が足りていないと感じる。・パニックで泣けてしまう・音に敏感・静かに過ごしたい等、様々な特性を持った利用児に対して室内が一つしかなくカーテンもない。特性に応じた対応が出来ない。 | ・段差には十分注意して介助を行っている。・トイレは少しずつ時間をずらして対応している。・パニック時や静かに過ごしたい時には事務所を使用する。 |
| 3 | ・建物が古く修理が追いついていない。 ・防犯対策が弱い。 ・出入口が1つしかない。 | ・建物が古く修理が必要な箇所が多く不具合が生じてしまう。 ・建物が古く構造的に防犯対策が出来ない ・出入口が1つしかない。 | ・常に報告は行っているが必要な修理はわかりやすく報告にあげていく。 ・両校舎で協力して防犯対策を練る必要がある。 ・防犯グッズを買い足し、訓練を行う。 |